

第6号様式別表5の6の3記載要領

- 1 この明細書は、法第72条の2第1項第1号若しくは第3号に掲げる法人又は同項第4号に掲げる事業を行う法人が、法附則第9条第13項（同条第14項及び第15項の規定により読み替えて適用する場合を含む。以下この記載要領において同じ。）の規定による控除を受ける場合（令和4年4月1日から令和9年3月31日までの間に開始する各事業年度において同条第13項の適用を受ける場合に限る。）に記載し、事務所又は事業所所在地の道府県知事に、第6号様式別表5の2に併せて提出すること。
- 2 「

第1号
法第72条の2第1項第3号に掲げる事業
第4号

」となっている箇所については、事業の区分に応じ、「第1号」、「第3号」又は「第4号」のいずれかを○印で囲んで表示すること。
- 3 法第72条第2第1項第1号に掲げる事業、同項第3号に掲げる事業及び同項第4号に掲げる事業のうち2以上の事業を併せて行う法人にあっては、それぞれの事業に係る「報酬給与額④」から「付加価値額からの控除額⑤」までの各欄の金額等について、計算の別を明らかにして記載し、それぞれの事業ごとに提出すること。
- 4 「適用可否③」の欄は、次に掲げる場合（(2)は、令和6年4月1日以後に開始する事業年度に限る。）のいずれかに該当する場合に「可」と記載すること。
  - (1) 「期末現在の資本金の額又は出資金の額①」の欄の金額が10億円以上であり、かつ、「期末現在の常時使用する従業員の数②」の数が1,000人以上である場合で、政令附則第6条の2第4項に規定する事項を公表している場合（同条第5項に規定する書類の写しの添付がある場合に該当する場合に限る。）
  - (2) 「期末現在の常時使用する従業員の数②」の数が2,000人を超える場合で、政令附則第6条の2第4項に規定する事項を公表している場合（同条第5項に規定する書類の写しの添付がある場合に該当する場合に限る。）
  - (3) 「期末現在の資本金の額又は出資金の額①」の欄の金額が10億円未満であり、かつ、「期末現在の常時使用する従業員の数②」の数が2,000人以下である場合
  - (4) 「期末現在の常時使用する従業員の数②」の数が1,000人未満である場合
- 5 「前事業年度又は前連結事業年度⑥」の月数が6月に満たない場合であって、当該月数が適用年度（租税特別措置法第42条の12の5第5項第4号に規定する適用年度をいう。以下この記載要領において同じ。）の月数に満たないときは、次に掲げる各欄の記載に当たっては、それぞれ次に定めるところによること。
  - (1) 「国内雇用者に対する給与等の支給額⑦」から「⑦のうち雇用安定助成金額⑧」までの各欄租税特別措置法施行令第27条の12の5第18項第2号イに規定する前一年事業年度（同号イの前事業年度を除く。）又は法人税法施行令第2号の一部を改正する政令（令和2年政令第207号）附則第45条の2第3項第2号イに規定する連結事業年度等（同号イの連結事業年度を除く。）の損金の額に算入される給与等（租税特別措置法第42条の12の5第5項第3号イに規定する給与等をいう。以下この記載要領において同じ。）の支給額、その給与等に充てるため租税特別措置法第42条の12の5第1項第2号イに規定する他の者から支払を受ける金額又は同条第5項第6号イに規定する雇用安定助成金額を、各欄の上段にそれぞれ外書として記載すること。
  - (2) 「

$\frac{\text{適用年度の月数}}{\text{⑨の前事業年度又は前連結事業年度の月数}}$
---

」の欄 欄中「⑨の前事業年度又は前連結事業年度の月数」とあるのは、「前一年事業年度等の月数の合計数又は連結事業年度等の月数の合計数」として計算すること。
  - (3) 「比較雇用者給与等支給額⑩」の欄 欄中「⑩-⑩+⑩」であるのは、「(⑩+ (⑩の外書)) - (⑩+ (⑩の外書)) + (⑩+ (⑩の外書))」として計算すること。
  - (4) 「調整比較雇用者給与等支給額⑪」の欄 欄中「⑩-⑩」であるのは、「(⑩+ (⑩の外書)) - (⑩+ (⑩の外書))」として計算すること。
- 6 租税特別措置法施行令第27条の12の5第19項又は第20項の規定によりみなされた同条第12項又は第14項の規定の適用を受ける場合における「比較雇用者給与等支給額及び調整比較雇用者給与等支給額の計算」の各欄の記載に当たっては、次によること。
  - (1) 「比較雇用者給与等支給額⑩」の欄租税特別措置法第42条の12の5第5項第11号に規定する比較雇用者給与等支給額を記載すること。
  - (2) 「調整比較雇用者給与等支給額⑪」の欄租税特別措置法施行令第27条の12の5第21項（第2号に係る部分に限る。）の規定により計算した租税特別措置法第42条の12の5第5項第6号ロに掲げる金額を記載すること。
- 7 「継続雇用者給与等支給額及び継続雇用者比較給与等支給額の計算」の各欄の記載に当たっては、次に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ次に定めるところによること。
  - (1) 当該適用年度の月数と、「事業年度等又は連結事業年度等⑭」の「前事業年度等2」の月数とが同じ場合「事業年度等又は連結事業年度等⑭」から「継続雇用者給与等支給額及び継続雇用者比較給与等支給額⑬」までの「前一年事業年度特定期間等3」の各欄は、記載しないこと。
  - (2) 「事業年度等又は連結事業年度等⑭」の「前事業年度等2」の月数が当該適用年度の月数に満たない場合「継続雇用者に対する給与等の支給額⑧」から「継続雇用者給与等支給額及び継続雇用者比較給与等支給額⑬」までの「前事業年度等2」の各欄は、記載しないこと。
  - (3) 「事業年度等又は連結事業年度等⑭」の「前事業年度等2」の月数が当該適用年度の月数を超える場合「事業年度等又は連結事業年度等⑭」から「継続雇用者給与等支給額及び継続雇用者比較給与等支給額⑬」までの「前一年事業年度特定期間等3」の各欄は記載せず、「継続雇用者給与等支給額及び継続雇用者比較給与等支給額⑬」の「前事業年度等2」の欄には「差引⑫」の「前事業年度等2」の欄の金額のうち租税特別措置法施行令第27条の12の5第7項第2号ロに規定する前事業年度特定期間に対応する金額を記載すること。
- 8 「継続雇用者に対する給与等の支給額⑧」の欄は、損金の額に算入される租税特別措置法第42条の12の5第5項第4号に規定する継続雇用者に対する給与等の支給額を記載すること。
- 9 「⑩のうち所得等課税事業に係る額又は⑩×④/⑤ ⑯」の欄は、「調整雇用者給与等支給額⑩」のうち法第72条の2第1項第1号に掲げる事業（事業税を課されない事業を除く。以下この記載要領において「所得等課税事業」という。）に係る額を記載すること。
- 10 「⑩のうち収入金額等課税事業に係る額又は⑩×④/⑤ ⑰」の欄は、「調整雇用者給与等支給額⑩」のうち法第72条の2第1項第3号に掲げる事業（以下この記載要領において「収入金額等課税事業」という。）に係る額を記載すること。
- 11 「⑩のうち特定ガス供給業に係る額又は⑩×⑤/⑥ ⑱」の欄は、「調整雇用者給与等支給額⑩」のうち法第72条の2第1項第4号に掲げる事業（以下この記載要領において「特定ガス供給業」という。）に係る額を記載すること。
- 12 次に掲げる場合に該当するときは、「国内における所得等課税事業に係る期末の従業者数③」の欄には、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に有する事務所又は事業所の従業者のうち所得等課税事業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数（その数に1人に満たない端数を生じたときは、これを1人とする。以下この記載要領において同じ。）を記載し、「国内における収入金額等課税事業に係る期末の従業者数④」の欄には、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する各月の末日現在における法の施行地内に有する事務所又は事業所の従業者のうち収入金額等課税事業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数（その数に1人に満たない端数を生じたときは、これを1人とする。以下この記載要領において同じ。）を記載し、「国内における特定ガス供給業に係る期末の従業者数⑤」の欄には、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する事務所又は事業所の従業者のうち特定ガス供給業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数（その数に1人に満たない端数を生じたときは、これを1人とする。以下この記載要領において同じ。）を記載し、「国内における事務所又は事業所の期末の従業者数⑥」の欄には、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する事務所又は事業所の従業者のうち所得等課税事業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する事務所又は事業所の従業者のうち収入金額等課税事業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数、当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する事務所又は事業所の従業者のうち特定ガス供給業に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数及び当該事業年度に属する各月の末日現在における法の施行地内に属する事務所又は事業所の従業者のうち事業税を課されない事業又は法第72条の2第1項第2号に掲げる事業（以下この記載要領において「事業税を課されない事業等」という。）に係る者の数を合計した数を当該事業年度の月数で除して得た数（その数に1人に満たない端数を生じたときは、これを1人とする。）を合計した数を記載すること。
  - (1) 所得等課税事業、収入金額等課税事業又は特定ガス供給業（以下この記載要領において「所得等課税事業等」という。）を行う法人が事業年度の中途において事業税を課されない事業等を開始した場合
  - (2) 事業税を課されない事業等を行う法人が事業年度の中途において所得等課税事業等を開始した場合
  - (3) 所得等課税事業等と事業税を課されない事業等とを併せて行う法人が事業年度の中途において所得等課税事業等又は事業税を課されない事業等を廃止した場合